

令和4年度 職員自己評価記述と返答

職員の自己評価については集計を取り、グラフ化しています。また、職員の記述については、園長が返答のみを記載し、今年度の反省点、改善点を踏まえ、今後の取り組むべき課題について報告致します。

『仕事内容』

仕事内容、特に記録やカリキュラム等の作成については、来年度からの働き方（幼児部正職は15時以降の時間、乳幼児部正職は、記録等の日を出勤簿作成時点で入れ込む）により、改善できるようになるかと思えます。

ただし、それぞれの働きやすさの価値観は違います。また、仕事のスピード、要領等も違います。ですから、与えられた時間内に出来ない時は、職員数に余裕がある時にはその時間を使うことも出来ますが、まずは時間内に出来るよう努力することも必要です。

また、自分の得手、不得手を知って計画を立てていくことの重要性が求められます。遊びの中にも計画があり（天気等によって臨機応変に対応することも含めて）、遊びの中で子どもたちの持つ能力をどれだけ掘り起こすことが出来るか、そしてそれから行事や保育の中で発揮できるか、それを計画していくのが保育教諭、担任の役割です。その中で、先生方がやりたい保育を見つけていって欲しいと思えます。

感想意見は、乳幼児部、幼児部の職員がお互い理解し合うことが大切だと感じます。それぞれの部で働き方も全く違う中、お互いの思いがあるのは当然のことですが、それが当たり前になっていないでしょうか。「ありがとうございます」「助かります」「お願いします」と、言葉で伝えているのでしょうか。「協力が平等にできる体制」という中に、ここまでは乳幼児部、ここからは幼児部という線引きが必要でしょうか。来年度から働き方が変わる中で、行事準備の体制も変わっていきますが、その前に、お互いの言葉掛けや助け合いの精神が必要です。

『園児、保護者への対応、職員間について』

園児対応については上っている意見を読み、自分自身をもう一度振り返って下さい。子どものニックネーム呼びや、叱る時の対応について意見が出ているということは、保護者にも伝わっているという意識を持って下さい。何より一番は、子どもたちは確実に感覚しています。適切な保育とは、「当たり前であって当たり前でないのです」という職員の言葉が響きます。

保護者対応はとても難しいです。日頃の信頼関係や受け止め、即座の対応が必要になるため、職員間の連携（報告、連絡、相談）を大切に、気になることは何でも伝え、共通理解を持つことが大切です。

職員間については、毎年伝えていることではありますが、職員同士であっても職場内ではきちんとした言葉遣い、呼び方をして下さい。

意見の中で「愚痴」という言葉が出ています。このことは、職員間の信頼関係、雰囲気づくりにとって一番の問題です。それを聞いて不快になる人もいます。子どもへの対応にも関係します。不満や意見は公に伝えることが大事ですし、伝えなければ伝わりません。

『環境・安全について』

子どもの姿や様子を見て、できるだけ職員の人数を増やしていきたいのですが、特定のクラスだけでなく、その日、その時のそれぞれのクラスの状態もあり、常に一定のクラスに配置するというのが難しいのが現状です。それぞれ仕事の役割が違う中で、お互いの仕事の理解もしなければなりません。大変なのに入ってくれない、ではなく、状況を伝え、どうしても必要な時にはヘルプを出す、その時に対応

できることが必要でしょう。土曜日も、その時々で園児数が違うので難しいところですが、職員の意見を聞きながら検討したいと思います。

環境的なところについては、根本的な構造の変更が必要となり難しいことですが、何らかの対応策を考えます。また、マスクについては、来年度からは外す方向で考えていますが、まず、卒園式での対応を考えます。

『給食について』

給食に関する意見については、給食室との検討が必要です。量については、給食会議においても度々出ている課題です。

完全な黙食については、来年度から改善できると思いますが、職員が気を配らなければならないこともあります（食事中の会話のマナーなど）。楽しい給食の時間になってほしいです。

お弁当の日のメールでのお知らせについては、確かに困ったり、悲しい思いをするのは子どもたちです。また39メールでの報告をしていきたいと思います。

『行事について』

行事については、みのりこども園では、「運動会」「発表会」「作品展」を、子どもたちの成長過程、そして職員の成長にもつながる大切な行事として捉えています。“園の行事とは何か”を常に考えていくことが大事です。ですから、「作品展」自体をやめることはありません。しかし、職員の負担を考えて、内容の精査や、今までの固定観念を取り外し新しいものを作っていく、ということは大切です。職員間で話し合い、意見を出し合って取り組んでいくことが必要です。（但し、簡略化＝質の低下につながってはいけません）

園長、副園長、主幹にもっとクラスに入って欲しい、という意見については、これまでの対応を深く反省し、実行してまいりたいと思います。

今回の保護者アンケート記述では、厳しいご意見も多々あり、見直さなければならないことや振り返りももちろんありました。一方で、沢山の保護者が職員に対する感謝の言葉を伝えて下さいました。日頃の皆さんの誠意や努力があってこそだと思います。その中で、今回の皆さんの意見や感想を活かして、また更により良、共に育ち合うみのりの環境を共に作っていきましょう。

令和5年（2023年）3月1日

みのりこども園 園長 深草 誓弥